令和８年 10 月 30 日（金）発表

NUMAZU CITY PRESS RELEASE

沼津市　報道取材情報

明治史料館「昭和100年」記念　富士・沼津・三島　三市博物館共通テーマ展

「昭和の産業と人びとの暮らし 沼津、青い春。～焼け跡から未来へ～」を開催します

要　旨

終戦直後の廃墟と混乱からの復興、そして「豊かさ」を渇望した高度経済成長期。本展では、その時代を沼津という都市が迎えた「青い春。」と名付けました。「青春」には、爽やかな汗だけではなく、迷いや葛藤、挫折といった影もつきまといます。焼け跡から立ち上がり、未来を夢見て無我夢中で走り続けた戦後の約 40 年間の光と影を紹介します。

概　要

■企画展　明治史料館　３階展示室

【期　間】10 月 31 日（土）～令和９年１月 31 日（日）　９時～16 時 30 分

【観覧料】大人 200 円　小人（小・中学生）100 円［市内の小・中学生無料］

＊関連イベント＊

■歴史講演会

【演　題】「『豊かさ』とは何だったのか？～沼津の戦後復興から高度経済成長～」

【と　き】12 月 12 日（土）14 時～16 時

【ところ】明治史料館　２階講座室

【講　師】荒川章二氏（国立歴史民俗博物館　名誉教授）

【定　員】50 人（先着順）

【参加料】無料

【申込方法】10 月 31 日（土）９時から電話、メール、または専用フォームで

■ギャラリートーク：当館職員が展示を解説します。

【と　き】①11 月 14 日（土）②12 月 12 日（土）③1 月９日（土）11 時～（約 40 分程度）

【ところ】明治史料館　３階展示室

【定　員】各 10 人程度（先着順）

【参加料】無料　※要観覧料

【申込方法】①11 月７日（土）②12 月５日（土）③12 月 19 日（土）９時から電話または直接

お問い合わせ先

産業振興部　文化政策課　明治史料館

直通：０５５－９２３－３３３５

Proud NUMAZU

「昭和 100 年」記念　富士・沼津・三島　三市博物館共通テーマ展

昭和100年 1926—2026

昭和の産業と人びとの暮らし

沼津、青い春。

～ 焼け跡から未来へ ～

2026. 10.31 土 ▶ 2027. 1.31 日



焼け野原となって終戦を迎えた沼津。
間もなくして廃墟にヤミ市が現れた。

1945 昭和 20 年頃



復興が進んで商店街に発展。
駅前には都会の百貨店も進出した。

1955 昭和 30 年頃



オシャレして、お買い物に映画にお食事に。
商都沼津は「東部の雄」として前途洋々であった。

1965 昭和 40 年頃

歴史講演会　国立歴史民俗博物館 名誉教授 荒川 章二 氏

「『豊かさ』とは何だったのか？
ー沼津の戦後復興から高度経済成長ー」



2026.12.12 土
14:00 ～ 16:00

定員：先着 50 名［無料］
事前予約可
右QRコードまたは 055-923-3335
会場：明治史料館 2階 講座室

クイズに答えてオリジナルトイレットペーパーをゲット！



≡ 各市限定デザイン ≡
※なくなり次第終了

沼津市明治史料館

静岡県沼津市西熊堂 372ー1　電話 055(923)3335
■ 休 館 日 毎週月曜日（祝日は開館）　祝日の翌日
毎月最終平日・年末年始（12/29～1/3）
■ 開館時間 9:00～16:30
■ 観 覧 料 大人 200円　小人（小・中学生）100円
［市内の小・中学生は無料］

三島会場 10.24 ▼ 2027.1.31
水と交通の昭和史・三島
三島市郷土資料館

主催：富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

焼け跡から見上げた空は、どこまでも青かった。

終戦直後の廃墟と混乱からの復興、そして「豊かさ」を渇望した高度経済成長期。
沼津でも急速に開発が進み、企業の進出が相次ぐなど「東部の雄」として大きな繁栄を遂げました。しかしその一方で、石油コンビナート進出反対闘争や、ゴミ戦争の中で生まれた「沼津方式」など、急激な成長がもたらす歪みと向き合う日々でもありました。焼け跡から立ち上がり、未来を夢見て無我夢中で走り続けた戦後の約 40 年間。
本展では、その時代を沼津という都市が迎えた「青い春。」と名付けました。「青春」には、爽やかな汗だけではなく、迷いや葛藤、挫折といった影もつきまといます。決して綺麗なだけではなかったけれど、とてつもない熱気があった時代。この展示室に並ぶ数々の風景は、みなさんの心の奥にある「青い春。」と重なり合うところがあるかもしれません。
沼津が一番熱かった時代を、どうぞごゆっくりご観覧ください。









1945（昭和 20 年）

7月17日未明、B29の大空襲によって焼け野原となった。そして８月15日正午、多くの尊い命を失い終戦を迎えた。

1949（昭和 24 年）

富士製作所社長　田中精一が「平和国家建設・国土計画大綱」（田中プラン）を提唱、天覧に浴した。氏の「高速道路の父」たる偉業を称え、東名沼津インターに銅像が建立されている。

1961（昭和 36 年）

1961年、県は東駿河湾地域の石油コンビナート計画に着手、地域間の対立や立地の変更、水産業の反対などで立ち消えとなった。1963年、国により工業整備特別地域に指定されると、二市一町（沼津市・三島市・清水町）の合併が検討され、12月には改めて計画を発表。公害問題も相まって前例のない規模で反対運動が広がり、1964年9月、沼津市は計画撤回を表明、終結となった。

1975（昭和 50 年）

1973年、オイルショックを契機にごみ埋立場反対運動が起こり、市は清掃行政を見直すこととなった。1975年、市民との合意形成を経て、資源化によりごみの減量化を図る三分別収集「沼津方式」を開始、全国的なモデルケースとなった。

1948（昭和 23 年）

市民を活気づける商店街の復興事業として「沼津夏まつり」が始まった。狩野川花火大会とともに歴史を重ね、沼津の夏の風物詩となった。

1954（昭和 29 年）

本通りに全国初の公共歩廊を擁する防火帯建築のアーケード街が誕生した。最先端を行くモダンなデザインで、中心商業地として活況を呈した。

1964（昭和 39 年）

10月10日、アジア初の東京オリンピックが開幕。6日には市内でも聖火リレー隊が旧国一をコースに県内 92 番「吉原・原町境」から 101 番「黄瀬川橋東詰」までの中継地点をつないだ。

1974（昭和 49 年）

1887（明治20）年に敷設された県内最古の鉄道「蛇松線（のちの沼津港線）」もトラック輸送に押されて廃線となった。東海道本線の要衝であった沼津だが、電化の延伸や新幹線の登場で拠点性が低下、モータリゼーションも進んで交通の変化はまちの発展に多大な影響を与えた。









ギャラリートーク

当館学芸員が詳しく解説します
お気軽にお越しください

日時　2026.11.14（土）/ 12.12（土）
2027.1.9（土）

※各日とも午前11:00から40分程度、展示室内で行います

先着 10 名　参加費 観覧料のみ

開催１週間前の土曜日９時から受付
ただし、1.9（土）は12.19（土）から受付

055-923-3335
または直接